



演奏に合わせ合唱する参加者

音楽通じて啓発 富士市のごみを考える会

平成28年5月22日
富士ニュース

NPO法人富士市のごみを考える会は21日、もったいない音楽会P A R T 12 ～ みんなで歌おう懐かしの唄々を青葉台まちづくりセンターで開いた。

約90人が参加。演奏に合わせて合唱や体操を楽しんだ。

ケルン多恵子さん(ピアノ)、後藤たかねさん(アコーディオン)、川島美恵子さん(クラリネット)をメンバーとする歌声バンドのソレイユが出演。参加者たちは演奏に合わせて『茶摘み』『バラが咲いた』『みかんの花吹く丘』などを歌い上げた。

『ふじの山』をモチーフに『富士さんさん体

操』を考案した県理学療法士会東部地区理事の花城久子さんによる指導の下、さんさん体操も行った。

歌の合間には同会理事長の小川浩常葉大教授が、人口減少とインフラ老朽化時代におけるレジリエンスをもった生活排水処理施設整備と題して講演した。

来賓で市廃棄物対策課の平野信・統括主幹は、平成27年度の市内の家庭ごみが26年度に比べ1261ト減少したと報告。個人の1日当たりの燃えるごみ排出量の目標値を640kgと紹介した上で、生ごみの水切りキャンペーンへの協力を求めた。

音楽会前には28年度総会が行われ、▽生ごみ削減▽ごみの削減とごみ減量の方法と意義の普及▽小学校での環境教育などに取り組む事業内容を確認した。

富士 音楽楽しみ、ごみ問題考える

NPO法人富士市のごみを考える会は21日、音楽を楽しみながらごみ問題を考えるイベント「もったいない音楽会」を同市の青葉台まちづ



くりセンターで開いた＝写真＝。

会員や地元住民ら約80人が参加した。同市の歌声バンド「ソレイユ」のメンバーがピアノやアコーディオンの生演奏を披露。「富士山」や「茶摘み」の合唱のほかリクエスト曲に応じ、会場一体となり盛り上がった。

曲の合間には同会の小川浩理事長が浄化槽の使い方について説明。市廃棄物対策課の担当者

はごみの分別方法や処理の現状を紹介し、さらなる減量に向け協力を求めた。

平成28年5月23日
静岡新聞